

仁尾なつかし味めぐり

江戸の頃、葛島が防波堤となり、参勤交代や千石船が出入りする良港として栄えた仁尾。大店が軒を並べ、周辺の人たちは仁尾へ買い物に行くので「仁尾買いもん」という言葉も使われたほど。当時は大いににぎわっていました。時が経った今でも、峠を越えると、瀬戸内のおだやかな風景と江戸や昭和の匂いがするまちが迎えてくれます。人によっては懐かし、若い人には新しいまち。そんな仁尾の魅力をゆつくりとお散歩で参りましょう。



路地が多い仁尾の町並み



仁王門の木造金剛力士像(市指定有形文化財)が迎えてくれる吉祥院



白あんが入った珍しい形のメロンパン



(左) あっさり(下) コクのある2種類の中華そばを味わうことができます



地元で獲れた魚を使った天ぷら



昔のままに 金比羅灯籠



和三盆シュークリーム

仁尾の町並みをのんびりと

ガイドさんの案内で、港町、商人のまちとして栄えた仁尾の歴史を感じながらうまいもんを食べ歩き。昔ながらの町並みは、まるで時間が止まったかのような懐かしささえ感じさせてくれます。

また、仁尾には数多くの言い伝えがあり、それを守り伝え現在まで受け継がれています。

例えば、仁尾では3月3日にひな祭りを行わないことを、皆さんご存じでしょうか。戦国時代、仁尾城主の細川土佐守頼弘公が、長宗我部元親に攻められ、落城した日が陰暦3月3日であったことから、仁尾ではひな祭りは行われず、八朔の日に八朔人

形とひな人形が一緒に飾られています。ガイドの皆さんと一緒に歩けば、新しい発見に出会えます。

お散歩でいく

お散歩は、昔のよみがえりですが、意味は今も同じで「乗り物を使わず歩くこと」。仁尾は、昔ながらのたたずまいの家々や細い路地が多く、ゆつくりめぐり歩くのが似合います。

昔ながらの食べどころ

町並みなどの見どころだけでなく、当然、食べどころもたくさんあります。伊藤製パン所の白あんが入った珍しいメロンパン。軽く温めて食べるのが通の食べ方。

揚げたてアツアツのさるしやの天ぷらは、ふくらしたままをかぶりつくとも心もホクホクになります。

最も古い町並みが残る『なかんち』には、懐かしい味の中華そばが楽しめるお店が2軒。いりこの甘い風味がおいしいあっさりタイプがお好みならふたば。創業70年以上の老舗のうどん・中華そば屋の長兵衛はいりこと鶏のコクのあるスープが楽しめます。

植村屋の和三盆シュークリームは、店主が素材にこだわって作った一品。甘さ控えめのやさしい味が疲れを癒やしてくれるでしょう。

また、中橋造酢では、風味豊かなりんご酢やびわ酢(試作品)が参加者限定でふるまわれます。



